

コレクション

2016

RIMOWA®

Germany since 1898

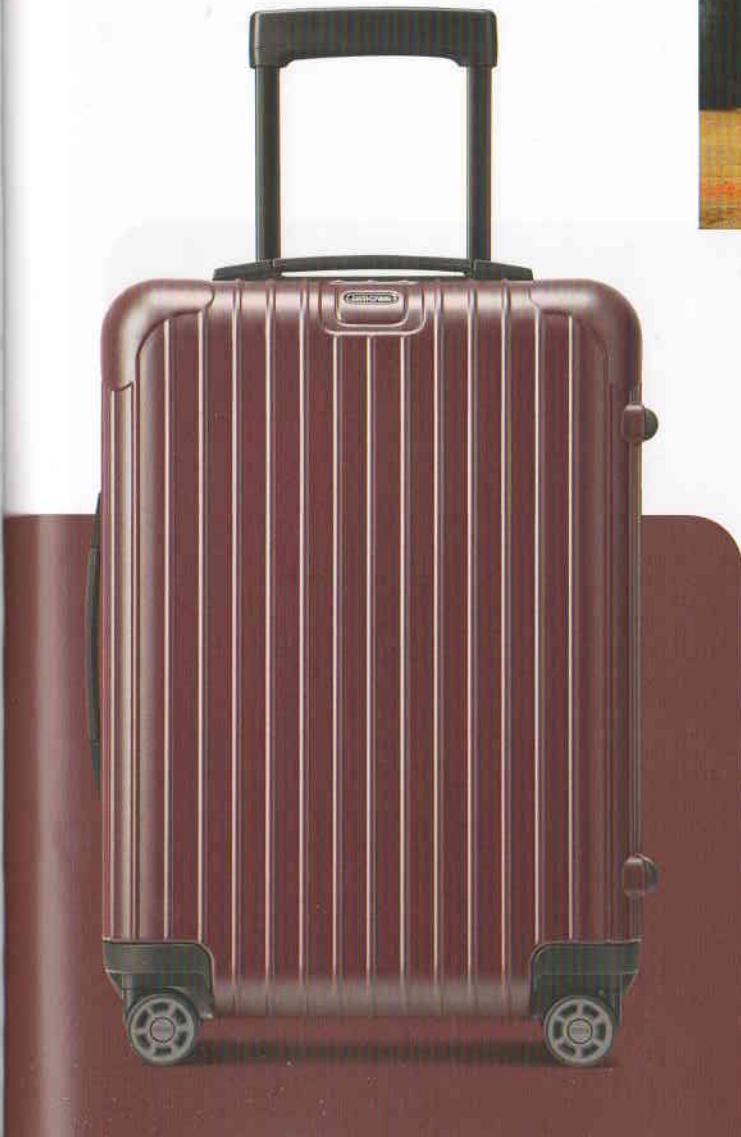


軽さほど 重い課題はない



糊を混ぜる傘職人の西堀耕太郎

日本古来の材料である竹と革新的なハイテク素材、ポリカーボネイトに共通しているものが何なのか、見ただけではわからない。これを確かめるためには、目よりも手触りを感じるべきだ。手で触ればこれらふたつの素材を結び付けるものが何か、すぐに理解ができる。堅牢でありながら決して扱いにくくなく、軽量でいてしなやか。すなわち、高い保護力を持ちながら、私たちの動作に制限を与えないという申し分のない特性だ。このような特性を生かし、ポリカーボネイトを初めて採用したスーツケース、SALSAが生まれた。優れた耐久性を最小限の重量で実現したSALSAは、RIMOWAで最も人気があるスーツケースコレクションのひとつだ。同様に日吉屋の和傘も、このような特性を生かした製品だ。傘の柔軟性が失われないようにしつつ、傘の強丈さを担っているのは、細く加工された50本を超える竹棒だ。柔軟性は、京都和傘で知られる日吉屋の五代目当主、西堀耕太郎の信条でもある。彼はこうも言う。「イノベーションが進むと、それは新たな伝統になります」。西堀にとって、伝統とはすでに定着しているものではなく、維持するために変化するか、変化をさせなければならない何かを意味する。



どの工程にも、この上なく繊細な技能が求められる。

ポリカーボネイトを最も美しいフォームに:SALSA



彼の仕事もまたこの絶え間ない変化の一部だ。京都の日吉屋は、日本では数少ない手作りの和傘を扱う会社のひとつだ。西堀は低迷していた事業を義理の父から譲り受け、深い眠りから甦らせた。彼は伝統的な素材と革新的な素材を組み合わせて新しい技術を試し、和傘のアイデアを発展させた。しかし彼は常にある原則に忠実だ。その原則とは、強さと軽量化を両立させることである。このふたつの要素は、傘においても、SALSAのようなスーツケースにおいても、両立させなければならない。西堀は自分の手を頼りにこれを実現している。